

## 2004年アテネ大会開会式のミソロジーとポリティックス

舩本 直文  
(首都大学東京)

Naofumi MASUMOTO, Ph.D  
Tokyo Metropolitan University

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

1

## はじめに: 概観2004年アテネ・オリンピック大会

- オリンピックの母国への回帰大会
- 古代オリンピックの祭典競技と1896年第1回近代オリンピック競技大会の故郷。
- 聖火が初めて世界5大陸を巡り、オリンピック開会と平和希求メッセージを告げた。
- ATHOCは、ギリシャの文化遺産とオリンピック運の遺産を売り物にしようとした。
- オリンピック教育の特色は、神話的世界とオリンピック競技大会の結びつきを強調。
- 大会テーマはHuman Scale: 今までの拡大路線の見直しを含め、オリンピック大会そのものの再確認を始めた。

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

2

## 2004年アテネ・オリンピック大会の光と陰 光の側面としての明るい話題

- 古代・近代のオリンピック・レガシーの継承
- 女性アスリートの参加増大
- これまでで最大の202の国と地域の参加
- 史上初の5大陸を巡る聖火リレー
- 日本選手団のメダルラッシュなど

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

3

## 2004年アテネ・オリンピック大会の光と陰 陰の側面としての問題の側面

- 反テロリズム対策で史上最大の警備費
- 盗難の遅れ: 運営・警備リハーサルが不可
- 莫大なテレビ放映権料: テレビ向けイベント
- 高いチケット代と放映権料依存の運営: 空席のスタンドが多くみられた
- 24件の史上最大のドーピング違反
- 摘発を恐れたアスリート辞退による低調な配
- 体操競技を典型としたミスジャッジの頻発とスポーツ仲裁裁判所(CAS)への提訴騒動
- アメリカを筆頭とした国連のオリンピック休戦決議の非遵守など

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

4

## 問題設定

- 新聞・テレビのメディア報道以外で知ることができる以上の国家の思惑の存在  
= 例えば、開会式のパフォーマンスに見られる国家主義やローカリズムのポリティックス、EU国家内での正統性の主張などの存在である。
- オリンピックの祝祭性を借りた国家や開催都市の思惑のメッセージの発信
- これらのポリティックスの存在を明るみに出そうとするのが本研究の目的

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

5

## 神話的パフォーマンス概観

- ギリシャ先史のキクラデス、ミノア文化から登場
- ケンタウルスによる五輪点火: 戦いの開始、キクラデス文明の仮面に投射される現代人の顔
- 宙を舞うエロス神
- エーゲ海に展開した悠久の古代ギリシャ文明
- 山車に引かれた歴史的パフォーマンス
- 古代オリンピックの祭典競技の様子
- 近代オリンピックの復興時の競技の様子

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

6

## 神話の持つ構造論的特徴

- 方法としての神話学ミソロジー
- 「一方では人をして潜在的なレアリテへ向かわせ、他方では、人をしてエロスの源泉にふれさせることによって、日常生活の世界の相対的な相貌を対象化することを可能にする。神話が、断片化して無意味になった日常生活経験を別のコンテクストに置きかえることによって、世界を甦らせ、真の意味を与える精神的技術であるとしたら、...」(山口昌男:1971)
- 「時代のパラダイムとして、人間の非合理性への欲求を満たす思考の潜在的枠組みのようなもの」(大林太良:1985)

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

7

## オリンピック開会式の神話的パフォーマンスの持つ構造論的特徴

- ギリシャの神話的誕生の世界とのつながり
- 古代オリンピック誕生神話と歴史的正当性
- 1896年近代オリンピック誕生の地→オリンピックの聖地化・神話化(ex:羊飼いのイリスのマラソン優勝の伝説化)
- オリンピック誕生神話と現在のオリンピックの抱える深層構造の顕現化
- ATHOC=ギリシャのポリティックスの顕現化

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

8

## コンテクスト:

- EU加盟国としてのギリシャ国家
- 9.11後の反テロ対策の一環としての膨大なセキュリティ経費(英国、スペインなど)
- イラク戦争の真最中
- アメリカ大統領選挙の真最中(反アメリカ色のギリシャとBushはオリンピックのイメージを自分の選挙HPで利用"Victory")
- 202カ国または地域への参加(世界最大の平和の祭典)
- 192カ国の国連オリンピック休戦決議の採択  
但し国連決議を遵守しない米国や日本

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

9

## メタ・テキスト:ポリティックスの顕現

- メタ・テキスト1. これはオリンピック母国のギリシャ・アテネのオリンピックである  
→オリンピックの正統性の主張
- メタ・テキスト2. これはギリシャの文化と歴史の発信の場である  
→西洋文明のルーツであるギリシャ国家の再確認

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

10

## 開会式のパフォーマンスに見るギリシャ国家(あるいはATHOC)のポリティックス1

- 現代の開会式会場(アテネ)と古代オリンピアの祭典会場(オリンピアのスタジアム)を結ぶドラムの掛け合い。共通の響きの共有→古代文明と現代文明の架け橋(国家としての始原と遺産の継承)
- エーゲ海を模した会場にケンタウロスの登場と五輪点火  
→フィールドに神話的世界の再現

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

11

## ポリティックスの解釈例:小舟に乗りギリシャ国旗の小旗を振る少年

- ツギジデスの言葉「ギリシャ憲法は他国のコピーではない。その運用は多数決の論理であり、それが民主主義である」。
- ギリシャ国旗の由来「ストライプの本数は「生か・死かLiberty or Death」のシラブル数、パターンは水と砂浜の2色、十字はキリスト教と東方正教会への従順と尊敬」  
→子どもの姿を借りながら、小国ギリシャの欧米文明の先駆けと哲学的始源を強調し、キリスト教を賛美するユーロセントリズム  
→そのような意図をあからさまにではなく、子どもを用いてソフトに表現する仕掛け

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

12

## イメージ仮託と役割期待のための子ども論

- 1. 比喩としての子ども(小さなもの、弱いもの、未知のもの、無力なもの、無知なもの。あるいは、古い力と新しい力を持つもの、新生、再生、神力などの象徴)
- 2. 育成としての子ども(人生の初期、その国の共同性(言語、慣習、規範)を獲得する過程としてあらわれる。育成者の理想とする共同性の理念に左右されている)
- 3. 体験としての子ども(本人によってしか生きられない1回きりの子ども体験。自由な空想・夢想・冒険・探検の世界を味わう独特の世界体験がある。大人が地上性とすれば天上性(至高の世界)や地下性(闇の世界)まで広範囲の世界を行き来するダイナミックな世界体験がある) (木田元他編(1989)コンサイス20世紀思想事典、三省堂)

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

13

## イメージ仮託と役割期待のための子ども論

- 1. 白紙としての子ども(タブラ・ラサ): 子どもは無限に教育可能。
- 2. 無垢なるもの、神性を宿すもの、真のヴィジョンを直感する力を持つもの (廣松渉他編(1998)哲学・思想事典、岩波書店)
- 3. テレビというメディアを前提にしたオリンピック開会式の子どもの演出には、「時代の無意識の証書が子どもの身体を借りて表現される」という立場が反映されていると考えられる。

(本田和子(1995)映像の子どものたち、人文書院)

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

## 子どもに仮託するイメージ

- 子どもを「純粋無垢なるもの」として大人が仮託するイメージ: 夢、未来、希望、平和など肯定的なものが多い。
- 純粋な喜びや楽しみなど、開会式の祝祭の現在を祝福する事も担われる。
- 「純粋無垢」「非力の力、非知の知」「成長」等の託されたイメージによって、オリンピックの持つ負の側面を隠蔽してしまう可能性。
- 現代オリンピックの商業主義、政治性、テロリズムなどが祝祭と子どもに付託された肯定的なイメージによって後景に追いやられてしまう。
- 子どもたちの存在はオリンピックの理想だけでなく、光と陰の両面からとらえる必要がある。

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

15

## 開会式のパフォーマンスに見るギリシャ国家(あるいはATHOC)のポリティックス2

- 山車のパフォーマンス: 先史古代ギリシャ文明から現代のギリシャ文化までのパノラマ
- 西洋文明発祥の地としての確認表明(キクラデス文明、ミノア文明、ミケーネ文明から)
- 西洋科学の発祥の地としての再確認(ピタゴラス、ユークリッド幾何学)

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

16

## 開会式のパフォーマンスに見るギリシャ国家(あるいはATHOC)のポリティックス3

- 古代オリンピック発祥の地としての誇り再確認(裸体のアスリート風の映像群)
- 近代オリンピック復興の地としての遺産の誇り(第1回大会の模倣的演技)
- 古代から現代まで: オリンピックの母国ギリシャの正統性の主張と再確認

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

17

## 開会式のパフォーマンスに見るギリシャ国家(あるいはATHOC)のポリティックス4

- アフロディテとエロス神
- 古代から変わらぬ人間の愛と性
- 人間誕生の営みもギリシャ神話から
- DNA=近代科学もアテネ五輪のHuman Scaleというスローガンへと関係づけられる

2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

18

### 開会式のパフォーマンスに見るギリシャ国家(あるいはATHOC)のポリティックス5

- オリーブの小枝を持った子供達の五輪旗歓迎(目立たない平和の主張)
- 平和の象徴のオリーブの大木と小枝
- 五輪賛歌コーラス隊の服装(古代コスチューム)
- →古代ギリシャのコスチューム:ギリシャ文明とコーラスという芸術の始原と正統性



2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

### 開会式のパフォーマンスに見るギリシャ国家(あるいはATHOC)のポリティックス6

- 選手団入場のプラカード嬢:テラコッタの人形風の衣装(アテネ大会マスコットとの連携)、
- 古代ギリシャの玩具と民族衣装の継承



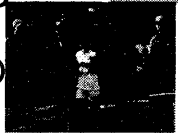
2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

20

### 開会式のパフォーマンスに見るギリシャ国家(あるいはATHOC)のポリティックス7

- 会場の中心にオリーブの大木  
→平和のメッセージを強調
- 初めて五大大陸を巡った聖火リレー  
→「Pass the Flame, Unites the World 聖火をつないで世界を一つに」が持つ平和メッセージ:  
(日本はどこまで参加できたか?)



2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

21

### 開会式のパフォーマンスに見るギリシャ国家(あるいはATHOC)のポリティックス8

- 後日、閉会式にPowell氏参加計画:  
パルテノン神殿の横断幕「パウエル・ゴー・ホーム」反米主義の爆発
- 開会式だけでなく、アテネ市内=神話の聖苑に政治を持ち込むこと。
- 平和希求とは既に大きなポリティックスに巻き込まれていること=政治思想であることと同義



2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

22

### 結論:ミソロジーが抱えるポリティックス

- 「神話は日常生活の世界的相対的な相貌を對象化することを可能にし、断片化して無意味になった日常生活経験を別のコンテキストに置きかえることによって、世界を甦らせ、真の意味を与える精神的技術」(山口昌男)だけでなく
- 普段は見えないものを顕現化させる=アテネ市民のアイデンティティ形成(オリンピズムに支配された超国家主義ではない)
- 「ミソロジーとは、その国家の精神性(集団的無意識)を政治性(ポリティックス)として深層構造に保持する装置かもしれない。」

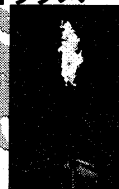


2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

### 開会式のパフォーマンスのポリティックスから生じる問題群-今後の課題

- アテネ大会=オリンピックのレガシー保持子どもたちに大人の論理で仮託されたイメージで、オリンピック・ドリームの新生産は可能であろうか?
- 子どもたちが批判的にオリンピックを見る目を養うオリンピック教育が可能であろうか?
- オリンピズムやオリンピック運動等の持つ平和主義の理念との整合性が可能であろうか?
- 特に、アテネ主義ともいえる、オリンピック文化の独占化とユーロセントリズムを強化しないか?
- オリンピズムがローカルでリージョナルなものから、グローバルなものへと変貌できるか?



2005年11月23日

日本体育学会第56回大会

24